



ほっとほっとタイムズ—第6号—

2025.11.28

井荻小学校 特別支援教育校内委員会
教育アドバイザー住谷陽子

まもなく12月、今年も終わりです。長かった2学期も間もなく終わろうとしています。

先日は展覧会にたくさんご参観くださり、ありがとうございます。送っていただいた感想には、「子どもらしい想像力豊かな作品」「のびのびとした作品」「一人ひとりの個性が表れていた」「個性があふれていた」など、たくさんのお言葉が並んでいて、うれしく読ませていただきました。保護者の方々からこのような言葉をかけていただいた子どもたちも、おそらく満足感をもって展覧会を終えられたのではないのでしょうか。

今年の展覧会、会場や作品のあちこちから子どもたちの声が聞こえてくるような気がしました。おそらく、それは子どもたちが安心して自分の内面を表現し、楽しんで作品作りに取り組めたからではないのでしょうか。その陰にはもちろん、たくさんのお先生方の仕掛けがあったのだと思います。子どもたちがやってみたくなるようなテーマ設定、使ってみたくなる材料の準備、自分でもできるかもしれないと思わせるような見通しのもたせ方、「いいねえ」「すてき！」など、本人の不安を吹き飛ばすような共感の声かけ……。様々な思いをもつ子どもたち全員に作品作りをさせること、内面を引き出すことは並大抵のことではないと思われそうですが、時間をかけ、子どもたちの気持ちに寄り添いながらかかわってくださった方々のおかげであろうと思います。(保護者の方々のご支援にも感謝しています。)

今、子どもたちの自主性、主体性が盛んに求められています。価値が多様化してきている今、何をすることも子どもを自ら動かすことはとても大変です。どうすれば豊かな毎日を過ごさせてやれるのでしょうか。

ある保育者養成の学校の先生のお言葉の中に、「子どもを育てる」ではなく、「自ら育とうとする子どもの育ちを支援する」のだというお言葉がありました。「子ども」というものをどう見るかということだと思います。私は長年子どもとかかわってきて、子どもが育っていくのは、大人が力で教え込んでいくことではなく、子どもの「やりたい」「わかりたい」という思いに寄り添っていくことだと感じています。そうなるともう一つ大事になっていくことは、子どもの思いをくみ取る力です。子どもは自分の思いをきちんと表現することはまだまだ難しく、ときには本人自身もよくわかっていないこともあります。そこで必要になってくるのが、子どもの思いを推察する力です。

先ほどの先生が子育てでもう一つ大事なこととして、「子どもの行為の裏にある思いを想像してみることを」挙げています。もしかすると正しくないかもしれませんが、それでもいろいろ考えてみるのが大事だと思います。その時、子どもであっても自分とは違う意思をもった一人であるということを忘れないことです。

決められた時間に宿題をしないで遊んでいたとしましょう。おそらく、親のほうは「なんでやらないの?」「いつになったらやるの?」となりませんか?でも、なぜできないのでしょうか。

遊びが楽しくて、つい時間を過ぎてしまったのかもしれませんが、本当に今から大急ぎでやろうとしているのかもしれませんが(そこに先ほどのような言葉が降ってくると親子で言い合いになるのは目に見えるようです)。もしかすると、体調が悪くて頑張れないのかもしれませんが、学習に不安で取り掛かれないのかもしれませんが。そうした子どもの気持ちに寄り添ってもらえず正論をぶつけられてしまうと、できてない自分を知っているからこそ余計に、わかってもらえない苛立ちをぶつけるか、大人への信用を無くすかではないのでしょうか。逆に、「どうしたの?」と声をかけながら子どもの思いに寄り添うことができれば、子どもは受け止めてもらえた安心感から自分の内面を出せたり、人に対する信頼感や安心感を育てたりできるのではないのでしょうか。

子どもたちが日々安心して過ごせるために、子どもたちがのびのびと内面を出しながら成長していけるために、私たちに何ができるのか、一緒に考えていきましょう。12月2日低学年の保護者会の後(4時頃から特活室にて)、ほっとほっとティータイムを予定しています。たくさんの方々のご参加をお待ちしています。